

天然医薬品学実習 (Pharmacognosy, Lab.)					担当教員
					教授 松田 久司
					准教授 中村 誠宏
					助教 月岡 淳子
					助手 前田 晋作
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	学生実習支援センター 教員
薬学専門教育（実習等）	3年次 前期	実習	0.5単位	必修	

【概要】

生薬学・天然物化学は、天然薬物に関する分野を統括する薬学のみならず存在する学問であり、天然薬物から得られた有効性成分が高度な創造性と重要な活性のある医薬品のリードやシード化合物となっている。また、天然薬物を組み合わせた処方を用いて治療する漢方が今日の医療の一翼を担っており、薬剤師がこの分野で指導的役割を果たすことが求められる。天然医薬品学実習では、以上を踏まえ、代表的な漢方処方の適応および配合生薬、代表的な生薬の確認試験、生薬成分の抽出分離法などについて修得し、生薬学・天然医薬品学、漢方医薬品学の理解を深めることを目的とする。

【授業の一般目標】

漢方方剤の調製法、代表的な生薬の鑑別、確認試験、品質評価、生薬成分の抽出分離法を学び、基本的技能と知識を修得する。また、薬用植物の形態を観察し、薬用植物学の基本的な知識を修得する。

【準備学習(予習・復習)】

実習書を事前によく読んで予習しておくこと。受講後は、実習書、ノート、参考書を活用し復習すること。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	生薬の鑑別・局方定量試験	全員	代表的な生薬を鑑別できる。代表的な生薬成分について、日本薬局方規定の定量法を概説できる。	C7-(1)-6-2, 5
2	生薬および生薬由来の医薬品の確認試験	全員	代表的な生薬および生薬を原料とする医薬品の確認試験が実施できる。	C4-(3)-1-4 C5-(2)-5-3 C7-(1)-6-3, 4
3	生薬成分の抽出分離・漢方方剤の調製	全員	天然薬物の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる（茶葉よりカフェインを単離する）。漢方方剤を各構成生薬に選別し、鑑定および混合割合を調べ、該当する方剤を見つけたせる。漢方方剤の煎剤の調製ができる。	C4-(3)-1-5 C5-(2)-5-3 C7-(2)-2-1
4	薬用植物園実習	全員	代表的な薬用植物の形態を観察し、類似植物と区別ができる。時期は植物の開花状況等に応じて変更する。	C7-(1)-2-1, 4 C7-(1)-6-5

	(書名)	(著者・編者)	(発行所)
教科書	実習書を配布する		
参考書	新版 実験を安全に行うために 事故・災害防止編	化学同人編集部編	化学同人
	新版 続実験を安全に行うために 基本操作・基本測定編	化学同人編集部編	化学同人
	第十六改正 日本薬局方解説書		廣川書店
	ベーシック薬学教科書シリーズ：生薬学・天然物化学	吉川雅之、他	化学同人

【成績評価方法・基準】

出席、レポート、実習態度により総合的に評価する。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

実習中に教員が常駐していますので、遠慮なく質問して下さい。実習終了後も常時、質問を受け付けます。
オフィスアワー：月～金の17時～18時；実習内容に関する質問がある場合には研究室（南校舎 フロンテ

イア研究棟1階 生薬学分野) に直接来るか、または、メール [松田 matsuda@mb.kyoto-phu.ac.jp, 中村 naka@mb.kyoto-phu.ac.jp] でも受け付けます。出張等でオフィスパワーを持ってないときもありますので、メール等で前もって尋ねて下さい。